

重度障害者のための創作活動と 地域支援者育成事業

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴルの取り組みを紹介します。

障害者が

「自分らしく生きる」ことを支援

神奈川県小田原市にある認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴルは、「自分らしく生きる」という法人理念のもと、障害のある人たちにアートを中心とする創作活動の場を提供し、社会的自立の促進と生活の質の向上に取り組んでいる。

同法人の設立経緯は、ダウン症の子どもを抱える理事長の萩原美由紀氏が、平成8年に県西地域に住むダウン症児者の親子のための任意団体「ひよこの会」に参画し、障害につ

いての理解を深める啓発活動に取り組んだことに始まる。その後、「障害があっても自分で選択していく人生を送ってほしい」という願いのもと、平成25年8月にダウン症児者に限らず、あらゆる障害のある人たちに創作活動の場を提供するNPO法人を設立し、アート活動を中心に、さまざまなワークショップを定期的に開催している。平成28年には創作活動を仕事とする就労継続支援B型事業所を開所し、令和2年4月に認定NPO法人の認可を受けている。

現在は、小田原市を活動拠点としたアート活動をはじめ、ヨガや英会話、陶芸、料理、農作業など、さまざまなワークショップを定期的に開催している。定員20人の就労継続支援B型事業所では、18歳以上の知的障害・精神障害・身体障害、難病など、すべての障害を対象としており、利用登録者数は40人を超える。

実践する創作活動について、萩原理事長は次のように語る。

「事業所では、絵画やクラフト、織り、農作業など、さまざまな活動を通して自分のやりたいことを見つけてもらうことに取り組ん

WAMから ひと言

肢体不自由や知的障害など、重度障害者を対象にした「アートワークショップ」を開催しました。アートワークショップでは、車いすに座ったまま絵を描ける環境をつくるなど、参加者の希望に応じた方法で支援をすることによって、自由に表現し創作活動を行うことができ、参加者の意欲の向上にもつながりました。また、特別支援学校や障害者支援施設に講師を派遣し、体験の幅を広げることが難しい組織で創作活動を体験してもらえた点は評価できます。

でいます。創作活動では、長年にわたり障害者のアート活動に携わってきたアートディレクターの中津川浩章氏が指導を担っていますが、具体的なアドバイスや技法などはあまり教えず、利用者が作り上げた作品に共感し、感じたことを伝えることを基本としています。そのような関わりを続けていくことで、利用者は自分を表現する意欲が湧くようになります。また、利用者は作品の制作をはじめ、作品を商品化する作業や販売、リース事業の配達にも関わり、工賃とは別に作品の売り上げの半分を仕事の対価として受け取れる仕組みをつくり、利用者がそれぞれのペースで社会的自立を目指す場となっています」（以下「」内は萩原理事長の説明）。



重度障害者に 自分を表現する場を提供

同法人は、令和元年度のWAM助成を活用し、「重度障害者のための創作活動と地域支援者育成事業」を実施した。

同事業は、重度障害者に自分を表現する機会を提供するとともに、支援者のスキル向上を目的に、①重度障害者のためのアートワークショップ、②アウトリーチ支援、③生活介護施設への視察研修、④コンセプトブックの作成を実施した。

「重度の知的障害や肢体不自由の人たちは、自分で何かをすることができないと思われるがちですが、当法人のワークショップに通っている重度障害の利用者のなかには、絵を描くことで、動かなかった腕の可動域が広がるといった例を目の当たりにしてきました。重度の障害により言葉をうまく発することが困難



同法人は、障害者を対象にアートを中心とした創作活動の場を提供し、社会的自立の促進と生活の質の向上に取り組んでいる

な人たちにとって、アートは重要なコミュニケーションツールであり、生きがいにもつながるため、創作活動で自分を表現する機会を提供していく必要があると考えました。

重度障害者を対象とした 「アートワークショップ」を開催

肢体不自由や知的障害など、重度障害者を対象にした「アートワークショップ」は、令和

元年6～12月の期間に16回開催（うち2回はダウン症児が対象）し、延べ80人が参加した。

実施にあたっては、アートディレクターの津川氏の指導のもと、参加者1人に対し2～3人のスタッフがサポートしながら絵画を中心とした表現活動を行った。

また、参加した利用者はほぼ車いすを使用しているため、柄の先にローラーや刷毛をつけた

事業概要

助成額
402万4千円



令和元年度事業

認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴル 重度障害者のための創作活動と地域支援者育成事業

【事業概要】

重度障害のある人たちに表現活動の場を提供することを目的に、アートに関するワークショップや、特別支援学校や障害者支援施設に講師を派遣して創作活動を体験してもらったりアウトリーチ支援を行うほか、重度障害者に対する創作活動の支援スキルを向上させるための視察研修を実施する事業

【実施内容】

- ◆重度障害者のためのアートワークショップ
肢体不自由者、知的障害など重度障害者を対象に、表現活動の場としてアートワークショップを開催
- ◆アウトリーチ支援
特別支援学校や障害者支援施設の利用者・生徒に創作活動を体験してもらうため、講師を派遣したアウトリーチ支援を実施
- ◆生活介護施設への視察研修
重度障害者に対する創作活動の支援スキルを向上させるため、先駆的な取り組みをしている団体への視察研修を実施
- ◆コンセプトブックの作成
法人の活動理念や創作活動の意義などをまとめたコンセプトブックを作成し、行政や関係機関等に配布



【成果】

- ◆全16回開催した「重度障害者のためのアートワークショップ」には、肢体不自由者や知的障害者など延べ80人が参加した
成果発表の展覧会では700人を超える来場者があり、障害者の創作活動を周知することができた
- ◆「アウトリーチ支援」は、小田原養護学校（小・中・高等部）、足柄療護園で計4回実施し、重度障害者73人をはじめ、教員や施設職員、保護者など62人が参加した
利用者に自分を表現する楽しさを体験してもらうとともに、教員や施設職員にも重度障害者の創作活動の意義や価値を実感してもらう機会となった
- ◆「生活介護施設への視察研修」では、国内で先駆的に障害者のアート活動に取り組んでいる2施設（大阪府のアトリエコーナス、滋賀県のやまなみ工房）を視察し、現地で研修を受けた
助成事業を通して重度障害者の利用希望者が増加したことを受け、その要望に応えるために、令和3年4月に重度障害者が表現活動を行える生活介護と就労継続支援B型事業所を併設した多機能型施設を開設する予定となっている



道具を用いて、車いすに座ったまま絵を描ける環境をつくり、なかには床に直接座って絵を描くなど、参加者の希望がある場合は、その希望に応じた方法で支援を行った。
最初は恐る恐る筆を動かしていた参加者も、次第に自分の力で描く楽しさに気づき、満面の笑みを浮かべながら、全身を使って力強く表現することを体験したという。
「サポートでは絵の内容や色の塗り方などをこちらから勧めるのではなく、参加者自身





重度障害者を対象にしたアートワークショップで絵を描く参加者。表現する喜びに笑顔があふれる。車いすの使用者は柄の先にローラーや刷毛をつけて描いた



特別支援学校や障害者支援施設で実施したアウトリーチ支援では、参加者全員で共同作品の制作に取り組んだ。画用紙の上で車いすに乗ったままの状態では絵を描いたり、車いすから降りて手に絵の具をつけて描くなど、それぞれが想いのままに自分を表現することを楽しんだ



に自己選択してもらうことをいちばん大切にしました。参加者の大半は言葉によるコミュニケーションをとることが難しい人たちでしたが、回を重ねるごとに意欲をもち、使用したい色を表情で示すなど、自分の意思を伝えられるようになりました。保護者の方は『こんなに楽しそうな表情を初めてみた』『言葉を交わさなくても自分の意思を伝えられることがわかった』など、表現活動のもつ力にとっても驚いていました」。

アウトワークショップの成果発表の場として、小田原市の文化庁文化政策課との共催で展覧会を開催した。

展覧会はギャラリーという閉じた空間ではなく、小田原駅地下街という人通りの多い公共スペースで展示したことにより、8日間で

特別支援学校・障害者支援施設へのアウトリーチ支援

延べ700人が鑑賞したほか、複数のメディアの取材を受けるなど、障害者の創作活動を広く周知することにつながった。

また、アウトリーチ支援として特別支援学校や障害者支援施設に講師を派遣し、重度障害のある生徒・入居者に創作活動を体験してもらう機会を提供した。

アウトリーチ支援は、小田原養護学校（全3回）と足柄療護園で計4回実施し、重度障害者73人をはじめ、教員や施設職員、保護者など62人が参加した。小田原養護学校では肢体不自由の生徒が全員参加し、小・中・高等

部ごとに実施した。

具体的には、縦横4m×5mの大きな画用紙を用意し、参加者全員で共同作品の制作に取り組んだ。

「個人で描く作品と共同作品には、それぞれに異なるメリットがあります。例えば、個人の場合は作品が完成するまで一人で取り組むので達成感があり、それが評価されることは大きな自信になります。一方、共同作品は周りに触発され、制作の意欲が湧いたり、互いに共感して認めあうことにより、相手のことを許せるようになるという効果があります。小田原養護学校の子どもたちは、大きな画用紙の上に乗って絵を描いたり、筆ではなく手や足に絵の具をつけて描くなど、それぞれが想いをぶつけるように自由に描きました。また、身体障害者の入所施設である足柄療護園では、参加者全員が車いすに乗ったままでの活動となりましたが、みなさんの笑顔があらわれていました」。

視察研修を実施し支援スキルの向上を図る

さらに、助成事業では重度障害者の創作活動を担う支援者のスキル向上を目的に、国内で先駆的な取り組みをしている大阪府の「アトリエコーナス」と、滋賀県の「やまなみ工房」を視察し、現地で研修を受けた。

「2団体とも重度障害者の表現活動に取り組んでいるのですが、『アトリエコーナス』は住宅街のなかにあり、地域交流にも積極的に取り組む、地域に受け入れられている姿が



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。著作権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

助成事業の成果として、多くの重度障害者に創作活動の機会を提供し、自分を表現する

就労継続支援B型と 生活介護の多機能型施設を開設予定

そのほかにも、同法人の活動理念や障害者の表現活動の意義、活動の軌跡などを伝えるコンセプトブック「自分らしく生きる」を作成し、行政や関係機関などに配布した。

印象的でした。両施設とも共通していたのは、よい作品を生むためではなく、利用者一人ひとりがその人らしく自由に制作できる環境を整え、利用者が落ち着いていられる場を提供することに力を注いでいた点です。あらゆる障害を抱える人たちの自己実現を応援し、それをどのように社会的な自立につなげていくのかを考えることが、支援者の役割であることをあらためて実感しました。



アートワークショップの成果発表の場として小田原駅地下街で展覧会を開催し、延べ700人が来場した

地域共生社会の実現に向けて

認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴル
理事長 萩原 美由紀氏



助成事業では重度の障害のある人たちに創作活動の機会を提供するとともに、活動を広く周知できたことは大きな成果となりました。アートワークショップやアウトリーチ支援の参加者は、重い身体障害や知的障害があり、普段は自己表現する機会がない人たちがほとんどでしたが、画材や絵筆に工夫を施し、スタッフや特別支援学校、施設の支援者のサポートにより、重度の障害があっても自由に創作活動を行いながら、自己表現ができることを実証できたと思います。

令和3年4月に開設を予定している多機能型施設では、さらに多くの重度障害者に自己表現できる場を提供するとともに、地域共生社会の実現に向けた活動にも取り組んでいきたいと考えています。

◆団体概要

〒250-0055 神奈川県小田原市久野 906
アネシスヒルズ 102
TEL / FAX : 0465-25-4534
URL : <http://artdevivre-odawara.jp/>
設立 : 平成 25 年 8 月
理事長 : 萩原 美由紀

ことの楽しさを体験してもらおうとともに、アート活動を行う支援者のスキル向上を図ることができた。

「アウトリーチ支援は、特別支援学校の教員や施設の職員に、重度障害者の表現活動の意義や可能性を実感してもらおうねらいがありました。表現活動に取り組む当事者のいきいきとした表情をみて、実際に特別支援学校や施設の活動に反映されたことは大きな成果だと感じています」。

一方、助成事業でアートワークショップやアウトリーチ支援を実施したことにより、重度障害のある人からの利用希望が増加し、その対応が新たな課題となった。

この要望に応えるため、同法人は令和3年4月に就労継続支援B型と生活介護を併設した多機能型施設の開設を予定している。

多機能型施設では、地域に開かれた施設としてギャラリーカフェを設け、地域住民がお茶を飲みながら、利用者が制作した作品を鑑賞できるほか、接客や作品の販売など、利用者一人ひとりにあった働き方を選択できる環境をつくりたいとしている。

重度障害者の生きがいにつながる表現活動を実践する同法人の取り組みが全国に広がることが期待される。



社会福祉振興助成事業に
関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）

TEL : 03-3438-4756 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）

TEL : 03-3438-9942 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしくをお願いします！

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先：03-3438-0211（総務部総務課）

